

ケース1：外出先での対応

外出先でこれまでに経験したことのない揺れを感じました。幸い、怪我はありませんでした。東京方面で最大震度7クラスの大地震が発生した模様ですが、詳しい情報はわかりません。何を意識し、どのように行動しますか？

担当者	被災場所と状況	行動
A	朝の通勤途中で、大倉山駅を出たところで緊急停止した。	
B	会社の車で大豆戸町のハローワークで順番待ちをしていた。	
C	上尾での打合せを終え、JR線で帰社する途中、大宮駅で停車中に地震に遭遇した。	
D	顧客先からタクシーで羽田空港まで戻ろうとしていて、羽田空港の手前まできていたが、道路が封鎖され、タクシーは動かなくなった。	
E	新宿西口の顧客のビルで8F受付で顧客の担当者が出てくるのを待っていた。	
F	湾岸にある企業の研修センターで足の悪いP講師の研修中で、受講生は教室を飛び出し、主催者からその場で研修中止が宣言された。	
G	地下鉄の乗り換え中で、新橋付近の地下道を歩いていた。	
H	霞が関ビルの上層階でお客さんと打合せをしていたが、お客さんは部屋を飛び出したまま、戻ってこなかった。	
I	東京国際展示場の展示会場で、あるブースで説明を聞いていた。	
J	大牟田で研修中で揺れは感じなかった。関東で地震があったらしいという情報は事務局から伝えられたが、研修は残り1時間だったので継続された。	

ケース2：大震災からの生還

次のケースを読み、それぞれの設問に答えてください。

◆シーン1：大地震の発生

2012年4月上旬。今年は寒い日が続き、さくらの開花も遅れていました。やっと3分咲きとなってきたところでしたが、夕方からは強い雨だという予報が出ていました。

この日は、育児休業中のA（女）が生まれたばかりの長男のSくんを連れて会社に遊びにきていました。302室でひとしきり談笑したあと、雨が降り出す前にと帰り支度をはじめたとき、突然、地震警報が鳴り出しました。それぞれが携帯やスマホに手を伸ばそうとした瞬間、下から突き上げるような揺れを感じました。ドアや机がガタガタと大きな音を立て、とても立ってられない状態となり、電器やディスプレイがパシッと消えたかと思うと、その場で倒れ、机の上を滑って電話や書類と一緒に床に放り出すように飛散し始めました。

そのとき、会社にいたのはX、B（女）、Y、C（女）、D（女）の5名とAとSくんでした。Xは401室で1人で大阪のM社の担当者と電話中でした。Bは、302の応接室で納入業者の担当者と打合せ中でした。Yは、研修教材の発送準備の最中で、301室のデバックルームにいました。

302室のワークルームにいたのはC、A、Sくんの3人で、Aが帰り支度をしていたため、SくんはCが椅子に座ってひざの上で抱っこしていました。Dはちょうど302室のトイレにはいていたところでした。

外勤していたのはZ（役員）、E（女）、F（役員）の3名でした。ZとEは、都内の顧客先での打合せを終えたあと新宿駅で別れ、Zは埼京線に乗って大宮に向かい、赤羽あたりで被災しました。Eは次の打合せのため、再び新宿でFと合流する予定で、少し時間をつぶしたあと待ち合わせ場所の地下街のスターバックスにはいったところでした。

Fは、Sくんをあやしたあと、20分ほど前に新宿に向って会社を出発していました。

◎設問1：地震が発生した直後、初期対応としてそれぞれどのように行動しますか？

◆シーン2：社内の状況

大きな揺れは数分続きました。301室のデバックルームにいたYには物が落ちてきて体に当たりましたが、軽い打撲程度ですみました。しかし、複合機がズレてデバックルームのドアをふさいでしまい、部屋から出られなくなっていました。

応接室は本棚の本が飛び出し、転倒対策をしていたはずの本棚も1つ倒れましたが、納入業者の担当者はテーブルに潜って難を逃れました。Bは自分がどう行動したのか思い出せない状態でしたが、痛みは感じないのに指先を切り、少し出血していました。

トイレにいたDは無傷で、302室のCはSくんを抱えたまま、机に潜って無事でした。しかし、Aが子どもを心配して身を隠すのが遅れ、机の下に潜ろうとしたときに、パソコンが落ちてきて足の甲を直撃し、苦痛で顔をゆがめていました。Sくんは泣き叫び、Cでは手に負えないくらいでした。

401室にいたXは無事でしたが、ロッカーが通路に飛び出し、401の奥の資料室のキャビネットの1本が倒れていました。会社のビル自体は倒壊しませんでしたでしたが壁が数カ所剥がれ、ビルの前の電信柱は倒れて通りの向こう側の飲食店を直撃してしまっていました。

◎設問2：社内のメンバーは、それぞれどのような順序で行動しますか？ 自分のいた場所を起点とし、その後の行動を考えてください。

◆シーン3：外勤スタッフの状況

Zが乗った電車は、赤羽駅を出て間もなく緊急停止していました。電車は復旧見込みがなく、車掌の誘導で線路伝いに歩いて赤羽駅まで戻ることになりました。

Eのいた地下街は、一瞬停電して悲鳴があがりましたが、すぐに非常用電源で照明は点灯されました。それでも地下にいた人はパニック状態になり、出口に向かって人が押し寄せていました。

Fが乗っていた電車は、田園調布駅と自由が丘駅との中間の地上に上がったあたりで停止しました。緊急停止するとき、Fは椅子に座っていて無事でしたが、ひとつ前の車両では乗客が将棋倒しになり、悲鳴と助けを叫ぶ声が聞こえていました。

◎設問3：外勤中のスタッフは、それぞれどのような順序で行動しますか？ 自分のいた場所を起点とし、その後の行動を考えてください。

◆シーン4：会社の近郊と各スタッフの状況

地震が発生したのは3時半ごろでした。全員が302室に集合したあとも、強い余震が断続的に続きました。4時を回ることになると、厚い雲で外は薄暗く、ポツポツと雨が降りはじめ、だんだん強くなっていきました。

携帯はすぐにつながらなくなり、家族との連絡もうまくいきません。かろうじてtwitterでわかった情報だと、震源地は東京湾北部で、江東区で震度7を記録した模様でした。津波警報が出ていましたが、被害の情報はわかりませんでした。

東横線もグリーンラインも止まっており、日吉駅は人ばかりで何も情報が取れませんでした。停電に関する情報もわかりませんでした。ビルの前の電柱が倒れていることを考えても、簡単に復旧するとは思えませんでした。会社の周辺での火災は確認できませんでした。消防車のけたたましいサイレンがあちこちから聞こえていました。

Aは、骨折まではしていないようで、立ち上がることはできましたが、子どもを抱えて歩くのは無理な様子でした。家族とも連絡が取れず、保育園に預けてきた長女のTちゃんの状況も不明でした。Bは夫が地方に出張中で、小2の娘のPちゃんの状況がまったく把握でき

ない状況でした。納入業者の担当者は様子を見てくるといって会社を出ていき、そのまま戻ってきませんでした。

Dは、夫からはすぐに1度だけ「だいじょうぶ？」という短いメールが来ましたがそれっきりでした。西区の実家とも連絡がとれない状態でしたが、携帯の充電をし忘れていて、バッテリーが切れる寸前となっていました。Cは自宅の母と電話がつながりましたが、鶴見区の祖父の安否が不明とのことでした。独身のYも群馬の実家との連絡がとれないままでした。

Xは、妻と電話がつながりましたが、妻は勤務先の病院を離れられないので二人の息子達を何とかしてということでした。同居する母とも連絡がつきましたが、外出先で足止め状態で動けないと話していた途中で電話が途切れ、その後はつながらなくなっていました。

外勤スタッフのうちFからはすぐに、Zからもしばらくして防災ML（メーリングリスト）に一報がはりました。EはWi-FiとiPadを持ち出していましたが、地下にいたためか、まったく無反応でした。しかし、F宛には「新宿東口です。どこですか？」と直接メールが届いていました。

Zからは外勤者に現在地を教えろとMLで呼びかけていましたが、Fからは「田園調布を過ぎたところにて、自由が丘に向かう」とMLがありました。しかし、すぐにZから「逆だ。自力で丸子橋に向かえ」というMLがはりました。Eからは無反応でしたが、しばらくするとXがtwitterで、Eの「スタバでスタンバイなう」というつぶやきを見つけました。

また、twitterによると、東京都内は都心方面への道路は封鎖され、下町方面と湾岸地域の数カ所で火災が発生している模様でした。また横浜に関しては、磯子区で大規模な火災が発生した、いやしていないと、twitter上での情報が錯綜していました。

◎設問4：社内にはいたスタッフで緊急災害対策本部を立ち上げ、スタッフ全員が自宅に戻るまでのプロセスを検討してください。